

東区特色ある区づくり事業 じゅんさい池みらいプロジェクト

S J-i G s

Sustainable・・・持続可能な
Junsai-ike・・・じゅんさい池の
Goals・・・・・・・・目標!!

～じゅんさい池みらいプラン～

骨子（案）

令和3年10月21日
新潟市東区役所

目次

- (1) プランの策定について(プロジェクト概要、背景、目的、検討のステップ)
- (2) じゅんさい池の価値・課題
- (3) 基本的な考え方(プロジェクトのコンセプトと目標)
- (4) 取り組みの方向性
- (5) プランの実施体制

※ 園芸スイレン除去に関する検討表(イメージ)

(1) じゅんさい池みらいプランの策定について

○ じゅんさい池 このままでいいの!? ～じゅんさい池みらいプロジェクトのはじまり～

- ・ 昭和40～50年代の周辺の宅地開発などの影響で湧水が減少し池の水が枯渇、ジュンサイ全滅
- ・ 工業用水導水、ジュンサイの移植により、現在の姿に
- ・ ミシシippアカミミガメなどの外来生物や飼育鯉、園芸スイレンの繁茂、湖底の堆積物などの課題も
- ・ そんな状況に危機感をもった地域を中心に、池の環境保全活動や普及啓発活動が始まる
東区自治協議会提案事業などを通じ、池への思いや関わりを話し合ってきた

じゅんさいが生育できる
環境を子どもへ残す

つないでいく視点

“地域の宝” “誇り”
を子どもたちへ

長い目での活動

- ・ 令和2年度から特色ある区づくり事業として「じゅんさい池みらいプロジェクト」が始まった

○ じゅんさい池みらいプロジェクトの取り組み

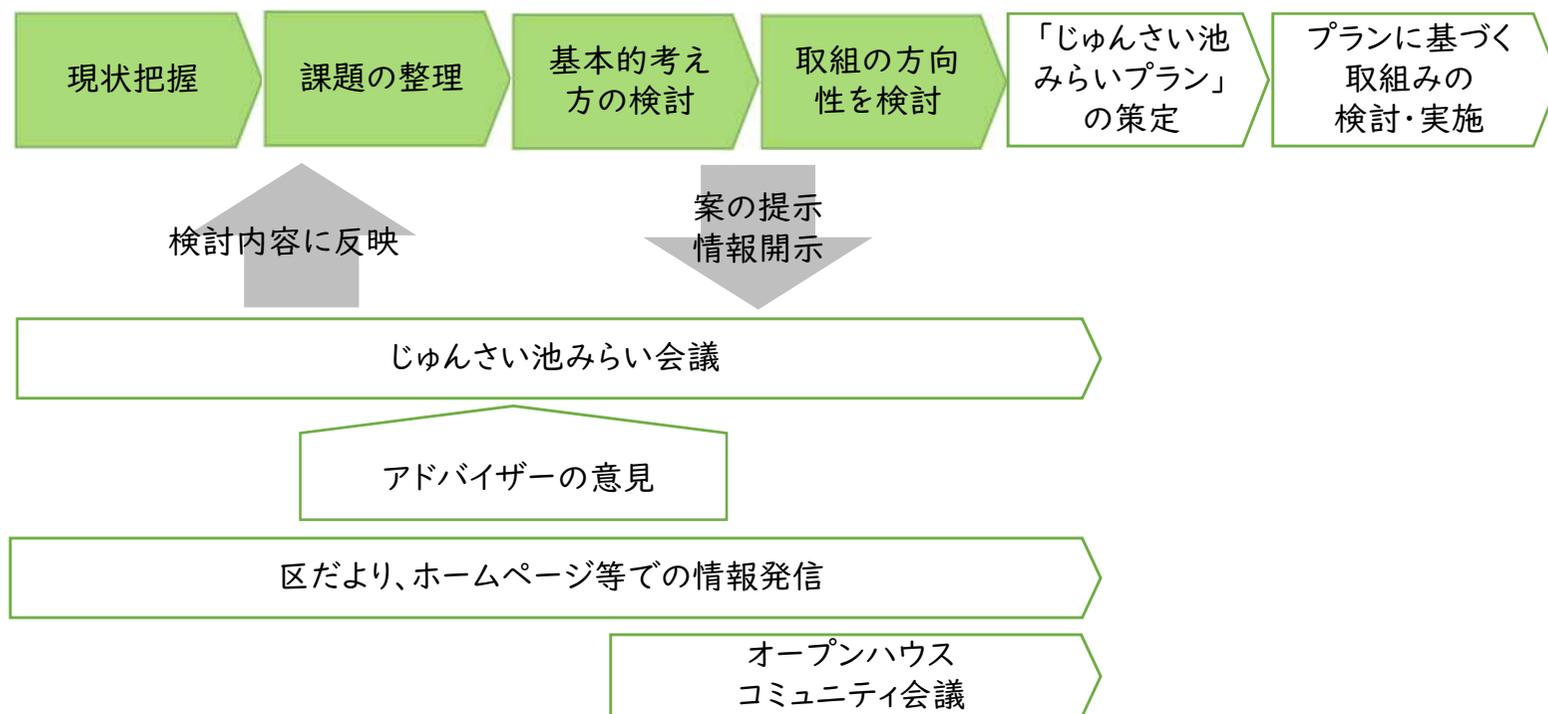
- ・ **保全** 園芸スイレンの除去やヨシの刈取りなど、池の環境保全活動
- ・ **P R** 魅力や特性を広く周知し、愛着や関心の醸成
- ・ **将来像の検討** 今後のあり方や、課題に対する取り組みの方向性を検討 → じゅんさい池みらいプランへ

(1) じゅんさい池みらいプランの策定について

○ じゅんさい池みらいプラン策定の目的

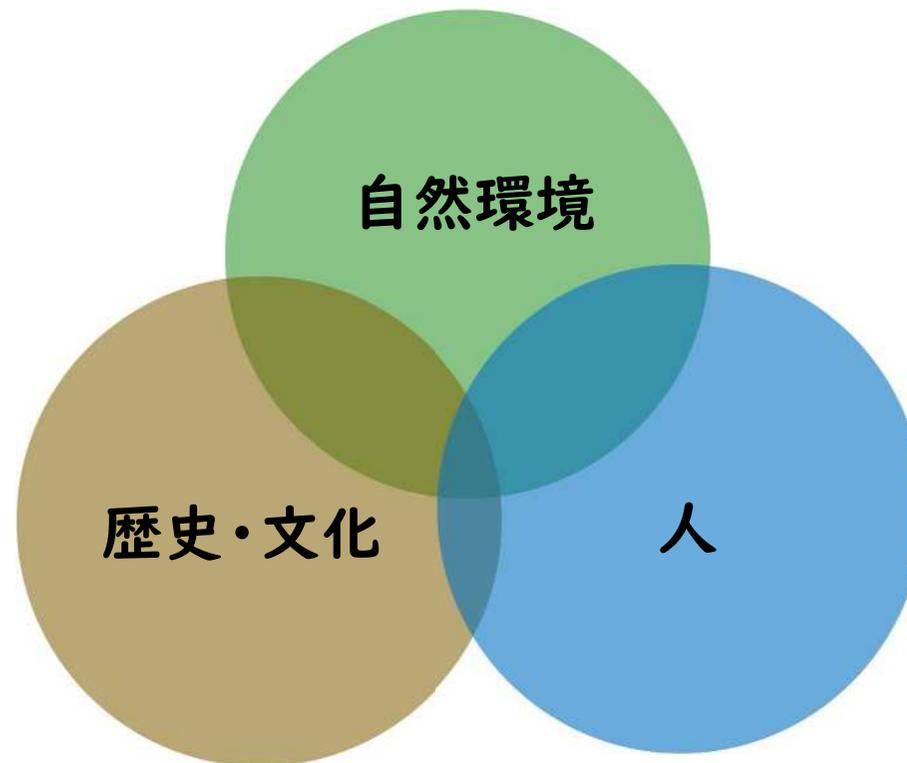
- ① じゅんさい池の価値や課題をわかりやすく示すこと
- ② じゅんさい池を未来につなぐための基本的な考え方や取り組みの方向性を、区民の皆さんと共有すること
- ③ プランの方向性に基づき、実際の取り組みを実施または検討していくこと

○ 策定のステップ



(2) じゅんさい池の価値

- ・ 周囲が都市化・住宅化した中で、砂丘湖である2つの池とそれを取り囲むアカマツを中心とした多種の植物、野鳥をはじめとした多様な生きものが生育する豊かな自然が残されています
- ・ かつては、ジュンサイの採取や湯治宿、スキー場があったことなど人々の暮らしと関わってきました。また、信仰の場であるとともに、伝説・伝承が残るなど、地域の歴史・文化を伝える場でもあります
- ・ 公園を憩いの場として親しむ利用者はもちろん、保全や整備活動、交流活動を担う地域の人々によって支えられています



(2) じゅんさい池の主な課題

園芸スイレン繁茂による
景観・水環境の悪化、
他植物への脅威

外来生物や飼育鯉の
放流、外来植物による
他の生きもの・植物
への脅威

環境保全活動や交流
活動の担い手の不足
(地域の担い手の高齢化)

じゅんさい池への
関心が薄い、
機運が高まっていない

じゅんさい池の価値や
魅力が知られていない

“危ないところ”
“気味の悪いところ”
というイメージ

シダレザクラと
ホタルの人工飼育が
継続困難

(3) 基本的な考え方

○ キーコンセプト

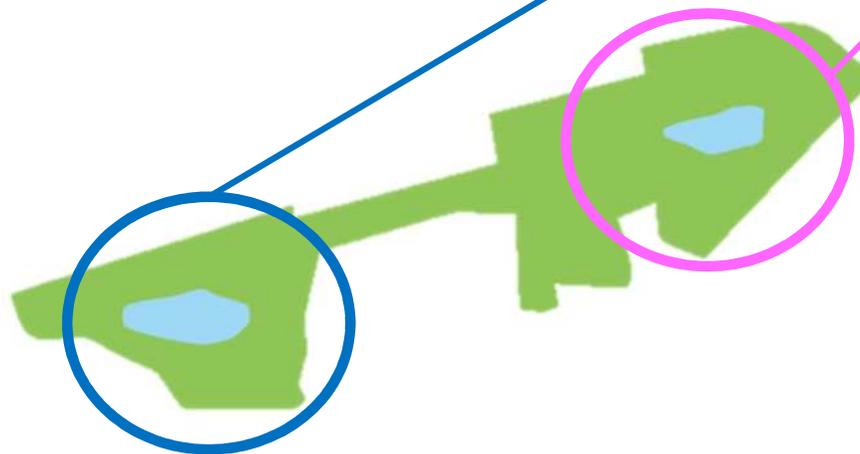
“未来につなぐ じゅんさい池”

- ◆ 私たちは、じゅんさい池の価値を今の子どもたちが大人になる次代につなぎます。

<じゅんさい池の目指す姿>

池の水環境と周囲の自然環境を活かし、自然とのふれあいや学習ができる場であるとともに、地域の人々が愛着をもってかかわり憩える場を目指します。

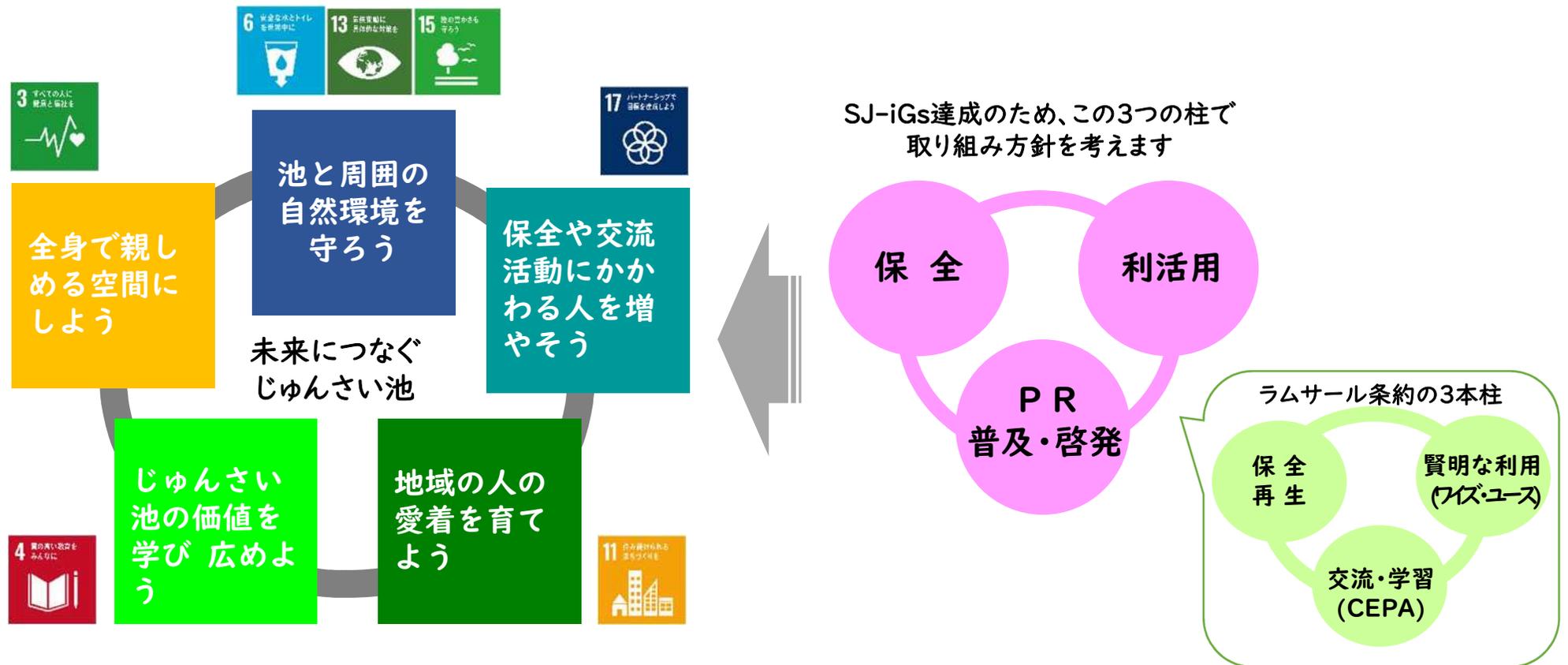
とりわけ、駐車場やバス停に近接し、水辺と花などの季節の風景を楽しむことのできる東池エリアは、
「人々が集う憩いの場」、
ジュンサイなど希少な水生植物が生育し、松林に囲まれた閑静な西池エリアは、
「貴重な自然環境を体感できる場」と、各エリアにおける方向性を位置付けます。



(3) 基本的な考え方

○ SJ-iGs (Sustainable Junsai-ike Goals 持続可能なじゅんさい池の目標)

- ◆ じゅんさい池を未来につなぐための活動目標を設定します。
- ◆ これは、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)とも共通する考え方と言えるため、じゅんさい池を切り口とした活動目標として、“SJ-iGs 持続可能なじゅんさい池の目標”を掲げます。
- ◆ SJ-iGsは、SDGsと同様に2030年までの達成を目指します。



(3) 基本的な考え方

○ 課題・SJ-iGs・視点 の整理

課 題	SJ-iGs	取組み方針の柱	
園芸スイレン繁茂による景観・ 水環境の悪化、他植物への脅威	池と周囲の 自然環境を 守ろう	保全	
外来生物や飼育鯉の放流、外来植物に よる他の生きもの・植物への脅威		保全 PR・普及・啓発	
環境保全活動や交流活動の 担い手の不足 (地域の担い手の高齢化)	保全や交流 活動にかか わる人を増 やそう	保全 PR・普及・啓発 利活用	
じゅんさい池への関心が薄い、 機運が低い	地域の人の 愛着を育て よう	PR・普及・啓発 利活用	
じゅんさい池の価値や魅力が 知られていない			じゅんさい 池の価値を 学び 広め よう
“危ないところ” “気味の悪いところ” というイメージ			全身で親し める空間に しよう
シダレザクラとホタルの人工飼育が 継続困難		利活用	

(4) 取り組みの方向性

<取り組みを検討するにあたって>

- ◆ これまでの活動を担ってきた地域や行政では、マンパワーも資金(予算)も限りがあります。
- ◆ SJ-iGs達成のための活動を持続可能な方法・体制で進めていくには、以下の視点での取り組みの検討が必要です。

人、資金、ノウハウ

資源の有効活用

新たな資源の掘り起こし

優先度の高い取り組みの選択

市民・区民の共感と賛同

(4) 取り組みの方向性

池と周囲の
自然環境を
守ろう

<この目標について>

じゅんさい池の価値の屋台骨ともいえるのが、周辺の宅地開発の中でここだけ残されてきた自然環境です。「じゅんさい池を未来につなぐ」ためには、まず、水をたたえた池と周囲の環境を守っていくことが基礎となるといえます。経費面、技術面、人的資源の面でも課題はありますが、持続可能な方法で保全活動を展開しながら、じゅんさい池の貴重な自然環境について、多くの人が理解を深める必要があります。

<取り組みの方向性>

- 1-1 西池は、自然環境保全のため、優先的に環境保全活動を実施
- 1-2 東池は、池から悪臭や溢水などが起こらないよう状況を観察
- 1-3 園芸スイレンの繁殖を抑える方策や湖底の堆積物等について、技術面・経費面の研究・検討
- 1-4 生物多様性の保全に関する正しい知識と情報、公園利用ルールの啓発

(4) 取り組みの方向性

保全や交流
活動にかか
わる人を増
やそう

<この目標について>

これまで、地元の地域コミュニティ協議会が中心となり環境保全活動や交流活動を行ってきましたが、担い手の高齢化や固定化が課題となっており、若い世代も含めたより多くの人が参画できる体制づくりと後継者の育成が求められます。

また、公園整備活動に携わる団体は各々の目的に沿って活動していますが、限られた金銭的・人的資源を効率的かつ効果的に活用するため、連携が必要です。

<取り組みの方向性>

2-1 安定的な池の保全活動・交流活動運営のための体制とネットワークの構築

(活動を担う団体間(地域コミュニティ協議会、公園愛護会、アダプト団体など)の連携)

2-2 池の保全活動・交流活動に継続的に関わる人や団体の掘り起こしと、後継の担い手育成

(4) 取り組みの方向性

地域の人の
愛着を育て
よう

じゅんさい
池の価値を
学び 広め
よう

全身で親し
める空間に
しよう

<この目標について>

じゅんさい池は、散策や野鳥の観察、自然の中でのリフレッシュなど、様々な目的で利用されており、公園愛護会やアダプト団体、地域による保全活動など、多くの人に関わり、整備されています。かつてはジュンサイの採取や湯治宿など、暮らしに密着した利用がされていたほか、現在も東池・西池各々に神社があり、信仰の場にもなっています。

このように、たくさんの人に親しまれている一方で、東区内でも「行ったことがない」、「どこにあるの？」などの声もあり、関心が高い状況とは言えません。また、樹林に囲まれた池をもつ環境は、“危ない”“こわい”というイメージにつながっている現状もあります。

現在のじゅんさい池は、過去から守られてきた価値や魅力だけでなく、環境面でも活動の担い手の面でも課題を抱えています。価値や魅力に加え、それらの課題も含めて、地元をはじめ、区民の皆さんがじゅんさい池を知り、関心をもってもらうことが必要です。

じゅんさい池への愛着は、すべての活動の原動力といえます。一人でも多くの人に好きになってもらい、自分の庭のように親しみ、手入れをしたいと思うようなはたらきかけが求められます。とりわけ、次代を担う子どもたちや若い世代に対して、全身で自然環境などを感じられる取り組みを通じた発信が重要ではないでしょうか。

<取り組みの方向性>

3-1 じゅんさい池の価値や魅力、課題の周知・啓発

特に、子どもたちに対して分かりやすく伝える工夫

3-2 じゅんさい池を体感できる取り組み

(フィールドワーク、まち歩き、多くの人に参加できる池の保全活動など)

(4) 取り組みの方向性 ~シダレザクラ・ホタルの人工飼育~

<これまでの取り組みと課題>

シダレザクラ
平成元年、京都円山公園の祇園しだれの血筋を引くものとして3本植樹
その後、毎年花見の時期はライトアップして「観桜会」を実施（令和2年度、3年度は中止）

- ・この数年は、3本のうち、東側の2本が弱っている状況で、枝振りや花付きが悪い
- ・樹木医の診察や施肥等を施しているが、回復の様子がない状況

この2本は、令和4年度を目途に伐採の方針

ホタル
昭和63年にホタルの里を整備。区が人工飼育を担っている
6~7月上旬に飛翔したホタルの成虫を捕獲し交尾、産卵させ、幼虫を飼育し、翌年3月下旬頃にじゅんさい池のホタルの里に幼虫を放流

- ・ホタルの餌（カワニナ）が、コンクリート製水路へ改修が進んだことなどにより、近郊での確保が困難
- ・幼虫の飼育は、夏季の水温上昇や病気のまん延など、常に絶滅してしまうリスクがあり難易度が高い
- ・飼育をう人員の確保が困難
- ・飼育には知識と経験が必要で、容易に引き継げるものでない

令和4年度以降の人工飼育の継続は困難

<取り組みの方向性>

4-1 じゅんさい池の価値や魅力、課題を広く周知・啓発、今後の魅力づくりや利活用を地域とともに検討

(5) プランの実施体制

- ◆ SJ-iGs達成のための取り組みは、以下の主体が行うことを基本としますが、それぞれが協働して進めることが必要です。
- ◆ 各々が連携して具体的な実施計画や進め方を検討したり、情報を共有するほか、定期的に取り組み状況と目標までの進捗状況を点検する必要があります。

ここでの「地域」は、取り組み2-1に基づいて構築される体制の中で、活動の実践を担う団体を想定

取り組み		実施主体							
		地域 団体	区 (地域)	区 (建設)	区 (区民生活)	ボラン ティア	学校	公民館	その他
1-1	西池の環境保全活動	◎			△	△			
1-2	東池の状況観察	△		◎					
1-3	園芸スイレン抑制や堆積物対策の研究	◎		△	△				民間団体 有識者
1-4	生物多様性保全や公園利用ルールの啓発	△		◎	◎		◎	△	
2-1	保全・交流活動の体制・ネットワーク構築	△	◎	◎	◎				各団体
2-2	関わる人や団体の掘り起こしと後継者の育成	◎	△		△				
3-1	価値・魅力・課題の周知、啓発	△	◎				△	△	有識者
3-2	じゅんさい池を体感できる取り組み	◎	◎	◎	◎	△	△	△	有識者
4-1	今後の魅力づくりや利活用の検討	◎	◎	◎	△		△	△	

◎:実施主体 △:サポートする主体

園芸スイレン除去に関する検討（イメージ）

- ◆ 園芸スイレンはきれいな花が咲き、それを楽しむこともできますが、在来の水草よりも丈夫なため、増えすぎてしまい対策が必要な状況になっています。
- ◆ 刈り取りや繁殖を抑えるための方策、水中でヘドロ化した葉茎への対策にあたっては、どの方策が適切かつ実現可能なのかを研究して選択する必要があります。

考えられる除去の方策	他の水生植物への影響	他の水生動物への影響	砂丘湖(砂礫の湖底による影響)	経費	労力	効果	評価	備考
葉の刈り取り								
根茎の掘り上げ(人力)								・一定程度水位を下げる必要あり ・東池はヘドロがあり池内部への進入が困難
根茎の掘り上げ(重機)								西池は重機の進入が不可
仕切り板の設置								西池は重機の進入が不可
遮光シートの設置								
池干し※								湧水の状況についても研究が必要

※ 池の水を抜き、湖底を露出させから園芸スイレンの葉・茎・根を取り除くことを想定